

「海の豊かさを守ろう」を目指した活動の取り組みについて

公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団 新潟市水族館マリンピア日本海



公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団（新潟市水族館マリンピア日本海）では、SDGs ゴール 14「海の豊かさを守ろう」の達成に向けた活動に取り組んでいます。

当財団では、年に4回ほど海岸を清掃するボランティア活動を実施しています。「水族館での海岸清掃」として地域に徐々に浸透しており、毎回、近隣の学生やご家族など多くの方々にご参加いただいています。また、令和7年度はこれまでの水族館近隣の海岸に加え、新たに田ノ浦海岸での清掃も行いました。この活動は、近隣の大学・団体と共同で実施したものです。

清掃の開始前には、海洋ごみやマイクロプラスチックに関するパネル解説の時間を設けています。活動を通じて、参加者の皆様に海洋ごみ

問題をより身近な課題として捉えていただけるよう、普及啓発にも力を入れています。

【パネル解説の主な内容】

- ・海洋ごみとは何か、どこから来るのか
- ・海洋ごみが生物に与える影響
- ・マイクロプラスチックとは何か
- ・今からできる環境活動

砂浜に捨てられたごみや漂着ごみが再び海へ流れ出すのを防ぎ、プラスチックごみを長期間放置しないことで、新たなマイクロプラスチックの発生防止に努めています。

当財団は海岸清掃活動を通じて、今後も海の環境保全に貢献してまいります。



田ノ浦海岸 清掃の様子



参加者によるごみ集積リレーの様子



集積されたごみ

■ ワークショップなどイベントへの出展

令和7年度は、昨年度に引き続きワークショップや出張展示に参加しました。普段、海に触れる機会の少ない方や、海の近くに住んでいない方にも海洋ごみ問題への関心を持っていただくため、体験型のプログラムを中心に行いました。

体験プログラムでは、近隣の海岸で採集した砂を用いた「マイクロプラスチック探し体験」を実施しました。参加者の皆様には、ごく少量の砂の中にも多数のマイクロプラスチックが存在すること、そしてそれを回収することの難しさを実際に体験していただきました。

また、ミズクラゲの水槽とビニールごみが入った水槽を並べて展示し、その類似性を視覚的に表現しました。ウミガメがビニールごみを誤食してしまう問題に関するパネル展示とあわせ、適切に処理されず海に流出したごみが生態系に与える影響について、考えていただくきっかけを提供しました。

これらの活動を通して、身近な素材が生物や環境に与える影響について、多くの方に興味や理解を深めていただくことができました。



体験の様子



会場の様子



ミズクラゲとビニールごみを見比べる展示

■ 取り組みの成果

昨年度の活動では、もともと環境問題に関心をお持ちの方々の意識をさらに高められただけでなく、ワークショップや出張展示を通じて、これまで海や海洋ごみ問題に触れる機会が少なかった方々へも広くアプローチすることができました。誰もが「楽しみながら体験できるプログラム」を提供したことで、より多くの方々が海や環境への興味・関心を広げる大切な一歩になったと評価しております。

